

第38回



朝顔・ほおずき市

江戸から続く坂道で笑顔に出会う夏の市



2023年

7月22日(土)・23日(日)

8:00~19:00

8:00~15:00

傳通院・源覚寺・澤蔵司稻荷・善光寺

主催:文京朝顔・ほおずき市実行委員会、文京区観光協会

後援:文京区、文京区町会連合会、文京区商店街連合会、東京商工会議所文京支部

協力:傳通院、源覚寺、澤蔵司稻荷、善光寺、富坂警察署、小石川消防署、小石川消防団、小石川郵便局、山梨県甲州市、島根県津和野町、茨城県常総市、変化朝顔研究会、東京朝顔研究会、跡見学園女子大学

お問い合わせ

文京朝顔・ほおずき市実行委員会事務局(礪川地域活動センター内) TEL 03-3813-3638(平日 9:00~17:00)

22(土)

江戸太神楽による伝統和芸

東京都より無形民俗文化財の指定を受ける伝統芸能。華やかで切れのある和芸はまさに粋の一言！歴史ある日本の大衆芸能をお楽しみください。

傳通院

源覚寺

土曜日終日巡回予定



11:00 オープニング式典 ※関係者のみ

会場：傳通院 織月会館

13:00 第127回 傳通院寄席

会場：傳通院 書院 [木戸銭1,500円]

出演：極楽カルテット

(三遊亭遊之介・桂歌助・春風亭柳好・三遊亭金也)

16:00 源覚寺寄席 — 桂文生 独演会 —

文京区本郷に在住し、40年自治会長も務める桂一門の名匠、桂文生による一日限りの独演会

会場：源覚寺 本堂

[定員40名]

【三代目 桂文生】

昭和48年NHK新人落語コンクールで、優秀賞を受賞。翌年、三代目桂文生を襲名して真打ちになる。金原亭伯楽・桂文生の二人会で全国口演は60回を越す。平成18年、文化庁主催・芸術祭優秀賞受賞。



23(日)

9:30 変化朝顔講演会

— 江戸の朝顔と大坂の朝顔 —

会場：善光寺 本堂 [定員80名]

【講師：平野 恵】

台東区立中央図書館郷土・資料調査室専門員

11:00 薩摩琵琶演奏会

— 夏の盛りの琵琶語り2023 —

会場：善光寺 本堂 [定員80名]

【琵琶奏者：川嶋 信子】

薩摩琵琶を鶴田流岩佐鶴文に師事。地元文京区を発信地とし、全国で琵琶の演奏を行う。

1日体験教室「まなびわ」を毎月開講。

琵琶の普及活動にも尽力している。

洗足学園音楽大学 非常勤講師

公式ホームページ nobukobiwa.com



13:00 鈴木あい ミニライブ

会場：傳通院 本堂前

【鈴木あい】シンガーソングライター・作曲家。文京区出身。ピアノ弾き語りで活動しているライブの他に舞台の劇伴作曲、アーティストへの楽曲提供やピアノサポート、CMやアニメプロジェクトでも活躍。2011年震災以降、気仙沼でライブを続けるなど東北復興支援に精力的に活動中。文京シビックホールで4回のワンマンライブ開催。日本の情景を細やかに描いた楽曲と繊細で透き通る歌声が定評。



22(土) 23(日) 共通

● 小学校一年生の朝顔の花あわせ会

礫川小学校・柳町小学校・指ヶ谷小学校の一年生児童が育てた朝顔を展示します

会場：澤蔵司稲荷



● 変化朝顔・大輪朝顔の展示

会場：善光寺

● 特設ブース

跡見学園女子大学 [ワークショップ (工作体験)] 傳通院

文京区観光協会 [ワークショップ] 傳通院

文京区レクリエーション研究会 [マンカラ] 澤蔵司稲荷

その他多数

● 模擬店 礫川地域活動センター前 礫川青少年健全育成会

【出展団体】

傳通院

文京区観光協会、富坂警察署、小石川郵便局、跡見学園女子大学、甲州市物産展、常総市物産展

源覚寺

小石川郵便局、津和野町物産展

澤蔵司稲荷

文京区レクリエーション研究会

礫川地域活動センター前

礫川青少年健全育成会、小石川消防団



朝顔・ほおずき 即売会

傳通院

朝顔

(700鉢限定)

¥2,000



善光寺

団十郎朝顔

[鉢] ¥2,500 (100鉢限定)

[苗] ¥500 (200鉢限定)



源覚寺

ほおずき籠

(500鉢限定)

¥2,000



売り切れ次第終了!

朝顔市会場

傳通院 [でんづういん]

室町時代の応永22年(1415)に、無量山寿経寺という名で開創された名刹です。慶長7年(1602)徳川家康公の生母於大の方が逝去、その法名を「傳通院殿尊光岳智香大禅定尼」と号し、この寺を菩提寺としたことから「傳通院」と呼ばれるようになりました。境内には千姫をはじめ徳川家康公ゆかりの女性の墓が多くあります。

また、関東18檀林の一つでもあり、1000人以上の学僧が修行していたとされています。明治25年(1892)には、淑徳女学校(現淑徳SC中等部・高等部)を設立。子女教育にも力を注いでいます。



ほおずき市会場

源覚寺 [げんかくじ]

【こんにやくえんま】宝暦(1751-64)頃、目を患った老婆に閻魔様が自分の右目を与えて治し、老婆は好物のこんにやくをお礼に供えたといわれています。以来、眼病治療祈願に訪れる人が絶えず、広く信仰を集めています。

【塩地藏とお百度石】お地藏さまの体に塩をつけてお祈りすると、同じ部分の病気が治るといわれています。「塩」ということでお相撲さんもお参りに来るそうです。お百度石は嘉永5年夏(1852)建立。多くの人々が家族を想って健康を願い、お百度を踏んだお祈りの場所です。



さわやか憩いの広場

澤蔵司稲荷 [たくぞうすいなり]

慈眼院は傳通院塔頭寺院として元和6年(1620)に創建されました。この学寮で修行に励まれた多くの学僧の中に、僅か3年で宗義を極めた澤蔵司という修行僧がおられました。ある夜、和尚の夢に現れた澤蔵司は『余は千代田城の内の稲荷大明神である。かねて勉強をしたいと思っていた長年の希望ここに達した。今より元の神に帰るが、長く当山(傳通院)を守護して、恩に報いる』と告げて暁の雲にお隠れになりました。そこで傳通院の住職は境内に稲荷を祀られ澤蔵司稲荷となりました。



変化朝顔・大輪朝顔展示

月参堂 善光寺 [がっさんどうぜんこうじ]

月参堂善光寺は傳通院の塔頭寺院として、慶長7年(1602年)徳川家康公の生母於大の方の念持仏を御安置し開創。念持仏とは、日頃より親しくお参りが出来るよう御安置をする御像を言い、於大の方は、家康公とご自身の現世・後世安楽を願い、この念持仏に手を合わせていたと伝わっています。古来より月参堂とも呼ばれ、これは月に一度の寺参りを勤めるとともに、月は仏さまにも喩えられており、仏さまを御参りする御堂を指すことに由来します。

寺前の道は善光寺坂と呼ばれ、朝顔会場とほおずき会場を結びます。



第38回 文京朝顔・ほおずき市会場案内マップ



交通のご案内
ACCESS



- 東京メトロ 後楽園駅
- 都営地下鉄 春日駅
- 丸ノ内線
- 南北線
- 三田線
- 大江戸線